



学校だより



松葉小 HP

9月号 No. 5

令和7年9月1日

台東区立松葉小学校

校長 松尾 敦

Tel 3841-2627

夏季休業を終え、充実の2学期へ

校長 松尾 敦

夏季休業中の学校は教材研究等にじっくりと時間をかけて取り組む余裕があつてよいのですが、子供たちの声が聞こえないのでとてもさみしい場所となつてしまいます。今日、久しぶりに学校中に子供たちの声が響き渡り、松葉小学校の校舎が喜びで微笑んでいるかのようです。我々教員も自然に頬がほころびます。やはり学校はこうでなくてはなりません。

2学期は5年生霧ヶ峰移動教室、6年生連合運動会、学習発表会、全校遠足、ひまわり学級合同遠足、道徳授業地区公開講座（PTA もちつき）が予定されています。日常の学習と併せて、これらの取組を通して充実した学校教育を展開していきます。公開時には改めてご案内します。皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

夏季休業中の出来事「6年生 日光林間学園～最高学年らしさが見られた3日間～」

7月22日からの3日間、栃木県日光市に行ってきました。2日目は悪天候が予想されたため、屋外での行程を丸ごと入れ替えて実施することによってうまく大雨をかわし、屋外での行程の一つも漏らさずに実施することができました。急な変更があつても、6年生はしなやかに対応し、全行程を主体的に楽しむ姿が見られました。その余裕ある姿・態度に、松葉小の最高学年としての自信を感じました。一方で、時折顔を出す野生の猿の姿に興奮して声を上げたり、ハイキングでは相応に歩きくたびれた表情を見せたりするなどかわいらしいところも見られました。



夏季休業中の出来事「4年生 館山臨海学園～備えあれば憂いなし～」

7月29日から2日間、千葉県館山市に行ってきました。到着してすぐにインストラクターから海水浴の楽しみ方を教わりました。ここがかつての臨海学園と一番変わったところです。本号の記事に詳細が出ています。より本格的に海を楽しめるように改善されたことが伝わると思います。

2日目の朝8時25分頃、カムチャッカ半島東方沖を震源とするM8.8という大規模な地震が発生しました。この時点で松葉小児童は海に行くために玄関に集合していましたが、一旦海に出るのを保留としました。この時点で太平洋沿岸には津波警報が発令されていましたが、東京湾内には津波に関する情報は出ていませんでした。しかし、海は一つにつながっています。台東区教育委員会と協議し、万一に備えて海での活動をやめることを決めたのとほぼ同時、宿泊先館山旅館（海拔2m）眼前の内房の海に3mの津波が到達するおそれがあるということで警報が発令されました。街中にサイレンが鳴り響きました。旅館の方からかつて避難場所として開設された実績のある「千葉県南総文化ホール」があるということ、地形アプリで調べると当該ホールは海拔8mであること、これらを鑑みて台東区教育委員会にすぐに避難を開始することを報告し、チャーターしてあるバス2台のうち1台が間に合ったところで1台に全員乗車して何も持たずに避難しました。バスを利用して避難したのは、受け入れてもらえなかった場合に涼しい居場所を確保するためです。



今回、ホールは避難場所となつてはいませんでした。本校の事情に配慮して駐車場に留まることを許してくださいと、そればかりか、トイレも自由に使わせてくださいました。宿泊先で食べるはずだった昼食の弁当は、業者さんが危険をえりみずバスまで届けに来てくださいました。館山旅館や千葉県南総文化ホール、お弁当業者の皆様には大変お世話になりました。感謝申し上げます。

こうして涼しくて安全な居場所と食料、水分の心配はなくなりました。次はどのタイミングで荷物を取りに戻って帰路に就くかが問題となります。市の緊急放送によれば、その後の情報に変化はなくサイレンが鳴り続ける状態が続きました。情報収集を続けつつ、結局そのまま車内での昼食となりました。スマホで津波の

到達状況を調べると、太平洋側の北沿岸から津波が到達し始め徐々に南下していましたが、まだ外房・九十九里浜には到達しそうにありませんでした。また、ライブカメラ映像で館山旅館前の海が風いていることを確認することができたので、旅館に戻って荷物をまとめ、アクアラインではなく山側の道路経由で松葉小を目指す判断をしました。区教委に報告後、一致団結して行動しました。

4年生は一連の行動を落ち着いてやり遂げました。市原SA（海拔40m）では念願のお土産を買うことができ、家族へ思いを馳せている様子でした。こうして無事に帰校することができました。こういう非常時にこそ、毎月実施の避難訓練の成果が表れるものなのだと実感した臨海学園でした。